

## [ 普及事項 ]

新技術名：ナシ新殺菌剤の実用化（昭和63～平成8年）

研究機関名 果樹試験場天王分場

担当者 深谷雅子

[ 要約 ] ベルクガード水和剤500倍は6～7月の黒斑病防除剤として、マネージ水和剤4,000倍は開花直前と落花直後の黒星病防除剤として効果が高く、実用性が確認された。

## [ ねらい ]

新しく開発された殺菌剤のナシ主要病害に対する防除効果を検討し、実用性の高い薬剤を防除基準に採用して防除体系の改善をはかる。

## [ 技術の内容・特徴 ]

1. 黒星病および黒斑病の主要な感染時期に新殺菌剤を散布し、これまで使用されている薬剤と防除効果、薬害について比較検討した。
2. ベルクガード水和剤500倍はイミノクタジナルベシル酸塩とチウラムの混合剤で、6～7月の黒斑病の主要な感染時期の散布により、高い防除効果を示した。八雲や二十世紀の葉や果実に薬害は見られず、実用性が認められた。
3. マネージ水和剤4,000倍はE B I剤で、開花直前と落花直後の散布により黒星病の発病を抑えるとともに病斑上の分生子形成を抑制して予防および治療効果を示した。  
また葉や果実に薬害も見られず実用性が確認された。

## [ 普及対象範囲 ]

県内ナシ栽培地域

## [ 普及・参考上の留意事項 ]

- ① ベルクガード水和剤は、黒斑病のポリオキシシン剤耐性菌にも有効であり、6～7月に数回散布して幼果期の果実感染を防止する。適正使用基準は収穫45日前まで4回以内の使用である。
- ② マネージ水和剤は他のE B I剤と同様に赤星病にも高い効果を示す。多用すると耐性菌が出現する恐れがあるので開花直前と落花直後の使用とする。適正使用基準は収穫21日前まで3回以内である。

[ 具体的なデータ等 ]

第1表 ナシ黒斑病に対する防除効果（天王分場、平成8年）

供試薬剤	使用濃度	八 雲		二十世紀	
		調査果数	発病率	調査果数	発病率
ベルクガード水和剤	500 倍	134	0.7%	83	4.8%
キノン銅40水和剤	600 倍	74	1.4	127	6.6
フジオキシラン水和剤	600 倍				
+ポリオキシシンAL水和剤	1000 倍	120	0.8	89	5.6
無 散 布		77	6.5	43	27.9

散布月日：6月6日、6月13日、6月20日、7月4日、7月16日

ポリオキシシンAL水和剤は6月6日および6月13日の2回加用

調査月日：八雲9月10日、二十世紀10月2日

供試品種：八雲、二十世紀、各成木

第2表 ナシ黒星病に対する防除効果（天王分場、昭和63年）

供試薬剤	使用濃度	7月7日		10月3日	
		調査葉数	発病率	調査葉数	発病率
マネージ水和剤	4000 倍	371	0%	100	2.0%
アンビルフロアブル	2000 倍	425	0	100	5.0
ビスダイセン水和剤	800 倍	406	1.2	100	5.0
無 散 布		424	57.0	46	78.3

散布月日：5月3日（開花始め）、5月11日（落葉後）、5月19日、5月25日

調査月日：7月7日、10月3日

供試品種：長十郎 40年生

[ 発表文献等 ]

な し